木を植えています
私たちはイオンです

3.11 復興への願いをカタチに。

イオン 心をつなぐ プロジェクト

2012年度～2014年度 第1期活動報告

「夢のある未来」へ。
私たちにできることを、
一つひとつ。

お客さまをはじめとするたくさんの地域の皆さまのご支援によって、今のイオンがあります。
だからこそ、これまで培った力をもって復興に取り組むことは当然のことであると考えます。
そして、2012年3月、長期にわたる被災地の復興を
オールイオンで取り組むことを決定し、3つの事業を柱に
「イオン 心をつなぐプロジェクト」を発足しました。
その3つの事業とは、被災地のみどりを取り戻す「①イオン 東北復興ふるさとの森づくり」、
自治体やNPOと連携して取り組む「②ボランティア派遣」、
全国各地のイオンピープルが自主的に推進する「③各地・各社からの支援活動」。
たとえ一人の力は小さくても、みんなの力を合わせて地道に積み上げていけば
きっと希望の種になれると信じています。

支援実績 | カタチになった総数 ※2015年2月末現在

お客さまからのご協力もあり、たくさんの人の想いが積み重なっています。

被災地での
植樹本数
106,997本

被災地ボランティアに
参加した従業員数
延べ1,987名

各地・各社での
ボランティアに
参加した従業員数
延べ138,053名

※被災地ボランティアに参加した
従業員数も含む

CONCEPT
イオンの理念と
プロジェクトの
方針
P.03

01
「イオン 東北復興 ふるさとの 森づくり」

地域の皆さまとともに、
30万本の植樹を目指して。
P.05

02
ボランティア 派遣

現地のニーズに合わせた、
中長期的な活動を。
P.11

03
各地・各社 からの 支援活動

さまざまな活動の輪が
広がっています。
P.15

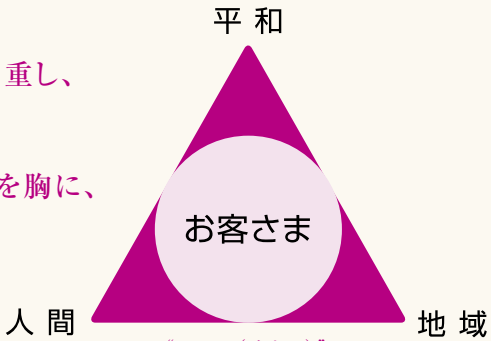
04
第2期（自立拡大期）に 向けた 取り組み
P.21

これまでも、これからも、できることを一つひとつ

イオンの理念とプロジェクトの方針

イオンは「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、
地域社会に貢献する」という不変の理念を堅持し、
その具現化のための行動指針である「イオン宣言」を胸に、
「お客さま第一」を実践してまいります。

「平和」：イオンは、事業の繁栄を通じて、平和を追求し続ける企業集団です。
「人間」：イオンは、人間を尊重し、人間的なつながりを重視する企業集団です。
「地域」：イオンは、地域のくらしに根ざし、地域社会に貢献し続ける企業集団です。



“ÆON（イオン）”
ラテン語で「永遠」を表します。

イオン宣言

イオンは、日々のいのちとくらしを、開かれたこころと活力ある行動で、「夢のある未来」（ÆON）に変えていきます。

イオン サステナビリティ基本方針

私たちイオンは、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」という基本理念のもと、
多くのステークホルダーの皆さまとともに、持続可能な社会の実現を目指します。
取組みにあたっては、「低炭素社会の実現」、「生物多様性の保全」、
「資源の有効利用」、「社会的課題への対応」を柱とし、グローバルに考え、
それぞれの地域に根ざした活動を積極的に推進してまいります。

「イオン 心をつなぐプロジェクト」の基本コンセプト

イオンの理念である「平和」「人間」「地域」に基づき、
全世界のイオンピープルが、イオンの経営活動で得た多様な資源を活かして、
創造性を発揮し、創発的取り組みとして、東日本大震災の復興に貢献する。
イオンピープルにとって、この体験はイオンの理念を体現し体感する機会であるとともに、
人間としての成長の機会となる。
翻ってそれは、商人（ビジネスパーソン）としての成長でもある。

復興支援の目的

人と人のつながりを持ち、人と自然、
自然と産業が共存する持続可能な地域共同体の復興をサポートする。

プロジェクトのビジョン

私たちはイオンの理念「平和」「人間」「地域」と「復興支援の目的」を重ね合わせて、
その実現に向けて「やりたいこと」「できること」を主体的に考え、
想像し、行動し、被災地の再生復興に立ち上がる地域の人々に寄り添うように貢献し続ける。

プロジェクトの実践計画

「イオン　心をつなぐプロジェクト」は、被災地の復興を支援するため２０１２年度より１０年間この活動を継続し、
沿岸部に「３０万本の木を植えること」、
「イオンの従業員３０万人が東北の復興支援に取り組むこと」を決定しました。
この１０年間にわたる活動を進めるには、中長期の方向性が欠かせないことから、
２０１３年度に活動全体を３カ年毎に区切り２０２１年度までの「中長期計画」を策定しました。

第1期　「初期的構築期」（2012年度～2014年度）

第１期の目標は、「プロジェクトをグループ内に周知し浸透させること」でした。ＮＰＯ等と連携し、その時々の現地ニーズに合わせ計画的に生活再建の応援活動を行いました。また、1年を通じて同じ地域へ定期的にイオンピープルが訪れ、地元の人々とのつながりを構築することを重視しました。

第2期　「自立拡大期」（2015年度～2017年度）

第２期の目標は、「地域の人々との交流によって、グループ企業・労使が一つの地域と関係を持ち、長期にわたって寄り添い、継続的な支援を実践する」ことです。グループ企業・労使は、交流によって学んだこと、自らの想いや特長を活かし、被災地に貢献できることを主体的に創造し、活動することを構想しています。この第2期におけるキーコンセプトは「交流と創造」です。

第3期　「整理充実期」（2018年度～2021年度）

第３期の目標は、「プロジェクトの成果を体系化し活用へと結びつける」ことです。一つは、事前防災を含めた、減災への備えとライフラインとしてのイオンの危機管理体制の構築です。もう一つは、社会問題そのものであり、東日本大震災がもたらした被災地の現状は、日本社会が遭遇している問題そのものと言えます。よって、この地域の再生は、日本社会の再生と同じ意味であり、この実践活動を通じ会得した知見を資源として活かしていくことが大切であると考えます。

第１期　「初期的構築期」取り組み概要

「イオン 東北復興ふるさとの森づくり」

2012年度3ヶ所19,200本、2013年度11ヶ所18,480本、2014年度19ヶ所69,317本の苗木を岩手・宮城・福島の沿岸部に植樹しました。３年の時をかけて「木を植えてから森づくりが始まる」ということを身をもって体感しました。私たちは植樹活動を通じて地域の皆さまとの交流を深め、森を育みながら人と人がつながり自然豊かなふるさとが復興することを目指しています。

「ボランティア派遣」

2012年度に岩手県陸前高田市、2013年度から福島県南相馬市で活動し現在も継続しています。
多くのイオンピープルが被災地を訪れ、現場を肌身で感じ汗を流し活動することで、少しでも地域の皆さまの想いに寄り添うことができるのではないかと考えました。
ボランティアの参加者の中には何度もくりかえし被災地に足を運ぶ従業員もいます。

「各地・各社からの支援活動」

プロジェクトを推進するため、各社に「推進責任者」を置き、これまでに8回被災地での現地研修を開催しました。
研修の効果もあり、2013年度からは各社に独自の活動が展開され始めました。
また、「東北復興マルシェ」の実施やドキュメンタリー映画「うたごころ」の全国各地での上映などを通じ、プロジェクトのスタートを社内外に発信しました。

2012年度～2014年度の活動報告

01 イオン 東北復興ふるさとの森づくり

津波によって失われた被災地域のみどりを取り戻すため、
「イオン 東北復興ふるさとの森づくり」を実施しています。
2021年度までに、30万本を植樹する計画です。

「イオン 東北復興ふるさとの森づくり」は、
2012年3月11日宮城県のイオンタウン塩釜植樹から始まりました。
たくさんの地域の皆さまにご参加いただき、
2014年11月22日気仙沼市階上の植樹までに、106,997本を植樹。
植樹することにより、1日でも早くみどり豊かなふるさとに戻ってほしいという
一人ひとりの想いがこの木々には込められています。

忘れてはいけない想いを、この地でつなぐ。

上釜ふれあい広場植樹祭【宮城県石巻市】

2012年11月17日、石巻市と公益財団法人イオン環境財団主催による植樹祭が開かれました。
当日は寒く悪天候のなかにもかかわらず、亀山石巻市長はじめ1,600名もの地域の皆さまにご参加いただきました。
イオンモール石巻、イオンタウン矢本の従業員など多くのイオンピープルが参加。
この場所は東日本大震災直後、犠牲となった方々の火葬が間に合わず、仮埋葬されたところでもありました。
あの震災を忘れず、復興への想いをつなぐためにも、植樹した木々が元気に育ち、市民の憩いの森となるよう願いました。

●実施日：2012年11月17日（土）
●実施場所：宮城県石巻市 上釜ふれあい広場
●参加人数：1,600名
●植樹本数 ：15,000本
●植樹した樹木 ：タブ、シラカシ、オオヤマザクラ、ツツジなど20種類

地域を守る木々のたくましい成長を願って。

名取市 海岸防災林植樹祭【宮城県名取市】

宮城県名取市沿岸で、「名取市 海岸防災林植樹祭」を行いました。
名取市の海岸国有林は、クロマツが植えられ、塩害、強風や高潮を防ぐ
役割を果たしてきました。
2011年に発生した東日本大震災で仙台湾沿岸に押し寄せた津波により、
多くの木が折損、流失したほか、残った立木も塩害により大きな被害を受けました。
今回の植樹祭は、海岸防災林の再生に取り組む
林野庁「『みどりのきずな』再生プロジェクト」の
名取市下増田台林国有林内の植樹に参画したもの。
1.57haにも及ぶとても広い土地に、
多くのお客さまにご参加いただき、7,000本の植樹を行いました。
お客さまのなかには遠方から親子3世代で参加してくださった方も。
お孫さんと一緒に参加された方は
「一人で10本以上も植えられる植樹祭に参加したのは初めてで、
孫も喜んで植えている」と、おっしゃっていました。
沿岸地区海岸防災林で、クロマツと広葉樹を
一緒に植えるのはイオン独自の方法です。
今回植樹した木々がたくましく成長し、
これからも近隣の方々のくらしを守っていけるように願い、
今後も植樹活動を続けていきます。

●実施日：2014年6月7日（土）
●実施場所：宮城県名取市 海岸防災林
●参加人数：地域のお客さま 250名、イオンピープル 250名
●植樹本数：7,000本
●植樹した樹木：クロマツ、タブノキ、シラカシ、ヤブツバキ、
ケヤキ、ヤマザクラ、ムクゲ、マサキ

花々も、人々の交流も、咲かせたい。

三陸鉄道 南リアス線 陸前赤崎駅前 植樹祭【岩手県大船渡市】

好天に恵まれたこの日、岩手県沿岸部を走る三陸鉄道南リアス線の小さな駅「陸前赤崎駅」で、地元大洞公民館建設委員会主催の植樹祭が行われました。三陸鉄道の駅前植樹は、2014年6月の甫嶺（ほれい）駅に続き2回目です。

東日本大震災では、駅のすぐ下までがれきが流れ着き、ホームも大きく傾きました。小高い所に位置する駅から、見渡せたであろう住宅はいまはなく、近くに復興商店街が見えるばかりです。今後、駅の横には災害復興住宅が建設されるということで、工事が進められていました。

待合室やホームは再建され、きれいになってはいましたが、駅の周りは彩りがなく寂しさを感じました。そこでピンクや白、赤など色とりどりの花をつける樹木を植えていきました。高さのある急斜面での作業も多く、足元に注意しながら慎重に進めました。ある方が「駅は人をつなぐ場所」とおっしゃっていました。この小さな苗木が、成長し花を咲かせれば、人々の交流が生まれる場所ができることでしょう。

「ここに来るのはこれが最後。引っ越すの。」と言う方もいらっしゃいましたが、この地を離れる方々がまた集まれる場所になることを心から祈っています。

- ●実施日：2014年10月18日（土）
- ●実施場所：岩手県大船渡市　陸前赤崎駅前
- ●参加人数：地域のお客さま 約55名、イオンピープル 15名
- ●植樹本数：2,500本
- ●植樹した樹木：ハナミズキ、ヤマザクラ、タブノキ、シラカシ、ヤブツバキ、ネズミモチ、ヤマツツジ、トベラ、マサキ、シャリンバイ

塩害に強く、地域に根ざす木々を。

イオンスーパーセンター石巻東店 植樹祭【宮城県石巻市】

2005年の開店当時に敷地内で植樹された木々は、東日本大震災による津波で約半分が枯れてしまいました。今回はその被害を受けた場所で新たに2,700本の苗木を植樹。開店当時に敷地内に植えられた木のおよそ半分は津波により枯れてしまいましたが、浸水を免れたり、塩害に強い種目のものは４ｍほどの高さに成長し、いまも残っています。今回植えた苗木も地域に自生するシラカシ、ケヤキやマサキなど塩害に強いものを選定。地元の方々とともに、この地域にずっと根ざしていけるよう願いを込めて一本一本植えました。沿岸各地では津波により広範囲で甚大な被害を受け、木々が流失しました。小さな苗木が立派に成長するとともに、被害を受けた地域が復興へと歩めるよう、今後も各地で活動を続け、植樹した木々を見守っていきます。

- ●実施日：2013年3月9日（土）
- ●実施場所：宮城県石巻市イオンスーパーセンター石巻東店
- ●参加人数：約200名
- ●植樹本数：2,700本
- ●植樹した樹木：シラカシ、ケヤキ、マサキなど

思い出に残る、和やかな植樹祭。

イオン気仙沼店 植樹祭【宮城県気仙沼市】

2011年3月11日、2メートルの津波に襲われ多大な被害を受けましたが、店長はじめ従業員一丸となり、さまざまな困難を克服。この年の10月に再オープンを果たしました。植樹祭当日は天候にも恵まれて、イオンピープルをはじめ、一景嶋神社、旭が丘学園、宮城いきいき学園の皆さまほか、多くの皆さまにご参加いただきました。イオン気仙沼チアーズクラブの子どもたちの明るく元気の良い樹木紹介もあり、和やかな雰囲気のもと、植樹が行われました。植樹後は餅まきイベントや、温かい豚汁が振る舞われ思い出に残る植樹祭となりました。植えた木々が、子どもたちのようにスクスクと育つことを、心より願っています。

- ●実施日：2013年11月17日(日)
- ●実施場所：宮城県気仙沼市イオン気仙沼店「イオンの森」他敷地内
- ●参加人数：イオンピープル 189名
- ●植樹本数：1,700本
- ●植樹した樹木：カンツバキ、マンリョウ、シキミ、クチナシ、サツキ、ムラサキシキブ

津波被害からの再生を目指して。

二の倉神明社 鎮守の森づくり植樹祭【宮城県岩沼市】

この地域は、東日本大震災の津波で甚大な被害を受け、まだまだ水道などのインフラが整備されていませんでした。地域の方々に親しまれた「鎮守の森」を復活させるべく、宮司さま、氏子さま、地元の方々とともに2,500本の苗木を植えました。この苗木が、この地域のみどりを再生するとともに、防災林の役割を果たすことを切に願った植樹祭でした。

- ●実施日：2014年5月16日（金）
- ●実施場所：宮城県岩沼市　二の倉神明社
- ●参加人数：地域のお客さま 38名、イオンピープル 31名
- ●植樹本数：2,500本
- ●植樹した樹木：タブ、シラカシ、ヤマザクラ、マサキ、ヤマツツジ、トベラ、ケヤキ

移転の地から、願いを込めて。

八幡神社・大浜団地 植樹祭【宮城県東松島市】

植樹祭は宮城県東松島市の奥松島嵯峨渓近くにある大浜地区の「八幡神社」と、その地区にお住まいだった方々が集団高台移転された「大浜団地」で行われました。神社境内では、主に八幡神社の氏子さまとイオンチアーズクラブの子どもたちが、また大浜団地ではイオンピープルと地元の方々が、1本1本丁寧に植樹をしました。八幡神社に関わる方々や移転された方々が1日でも早く元気を取り戻してくれることを願っています。

- ●実施日：2014年10月25日（土）
- ●実施場所：宮城県東松島市宮戸　八幡神社・大浜団地
- ●参加人数：地域のお客さま 約100名、イオンピープル 68名
- ●植樹本数：4,663本
- ●植樹した樹木：トベラ、ハマナス、カンツバキ、ムラサキシキブ、サツキ、アジサイ、シモツケ、ヤマブキ、レンギョウ、ヤマザクラ、シラカシ、タブノキ、ツツジ、ヒサカキ、クロマツ、アカマツ

いつか美味しいワインになるように。

釜石鉱山 ぶどう植樹祭【岩手県釜石市】

2014年5月22日、釜石市天洞（あまほら）地区でぶどうの苗木を植えました。この天洞地区は、東日本大震災の津波の被害などは受けておらず、釜石鉱山が栄えていたときの住宅や公共施設の建物の跡地などがいまでも残っています。この植樹は陸前高田市の上長部地域でのボランティア活動をコーディネートしてくれたNPO法人遠野まごころネットの被災地での第六次産業事業の一環として行われたものです。シャルドネやピノ・ノワールの苗木約500本を植えました。これまで経験した広葉樹の植樹とは工程が多少違いましたが、これからの成長を楽しみに、いつか美味しいワインができるようにと祈りながら丁寧に植樹をしました。

- ●実施日：2014年5月22日（木）
- ●実施場所：岩手県釜石市
- ●参加人数：イオンピープル 30名
- ●植樹本数：500本
- ●植樹した樹木：シャルドネ、ケルナー、ミューラー、ピノ・ノワール、カベルネソーヴィニヨン

※半年後のぶどう

どんぐりでつながる森づくり。

イオンクレジットサービス株式会社「復興記念樹・どんぐりキャンペーン」

宮城県亘理町の「イオン ふるさとの森づくり亘理育苗ハウス」を訪問し、将来「イオン 東北復興ふるさとの森づくり」で使用する苗木をつくるための活動を行いました。近くの公園でどんぐりを拾った後、育苗ハウス内で苗木ポットづくりを行いました。この苗木を、2つセットにして、ボランティアの方に約2年間ご自宅で育ててもらいます。

そのうち一つを亘理町に戻して防潮林として植樹、もう一つはボランティアの方に引き続き育てていただき、亘理町での木の育ち具合を実感していただく予定です。

- ●実施日：2014年11月4日（火）
- ●実施場所：宮城県亘理町
- ●参加人数：イオンピープル 14名

里親さまの復興への願いとともに。

苗木の里親キャンペーン

苗木の里親キャンペーンとは

被害を受けた東北海岸林の再生を目指し、
全国のお客さまに苗木を託して1年かけて育てていただき、
その苗を、東北沿岸部に植樹する取り組みです。

配布

苗木を
お客さま（里親さま）に
お渡しします。

回収

1年間育てて
いただいた苗木を
お預かりします。

植える

被害を受けた
東北沿岸部に
植樹します。

苗木の里親キャンペーン

このキャンペーンは、地域に自生する塩害に強い樹木を選び、用意した苗木をお客さまにご自宅で育てていただくものです。そして1年後、大切に育てられ成長した苗木をお預かりし、東北で地域ボランティアの皆さまたちと三陸沿岸部の被災地に植樹をします。苗木配布時には小さなお子さまが「この木を育てる！」と熱心に自分の苗木を選ぶ姿も。このキャンペーンの趣旨にご賛同いただいた皆さまに、約740本の苗木を託しました。

- 実施日：2013年3月3日（日）
- 実施場所：茨城県つくば市稲岡イオンモールつくば
- 育樹祭参加人数：2,000名
- 配布した苗木本数：約740本
- 植樹した樹木：ヤマザクラ、マサキ、シャリンバイなど

「苗木がこんなに大きくなったよ！」

2013年11月に、植樹1,000万本を記念し、イオンピープルとその家族に被災地に植樹する苗木をイオン本社で配布。2014年7月の「子ども参観日」実施の際、苗木回収をしました。皆さまに大切に育てていただいた256本の苗木を受け取り、小学生のお子さまからは、「津波でなくなった海岸に植えてください。」と元気な声をいただきました。

- 実施日：2014年7月25日（金）
- 実施場所：イオン幕張本社 イオンタワー1階
  イオンプラザ特設カウンター
- 参加人数：イオンピープル 256名

気仙沼市階上（はしかみ）地区 植樹

この地区は3.11の震災当日、津波に襲われたところです。みどり豊かな郷土を取り戻し、未来につなぐためにご年配の方から子どもたちまで、多くの方々がご参加くださいました。この日植えた苗木は、被災地に植樹するため、2013年に全国の里親さまに１年間お預かりいただき、愛情込めて育てていただいたものです。植樹地近くには、苗木を育ててくださった全国の方々からの心温まるメッセージが書かれたボードも設置されました。

- 実施日：2014年10月12日（日）
- 実施場所：宮城県気仙沼市階上地区
- 参加人数：地域のお客さま 約180名、
  イオンピープル 52名
- 植樹本数：5,000本
- 植樹した樹木：タブノキ、ヤマザクラ、シラカシ、
  トベラ、ネズミモチ、シャリンバイ、マサキ

苗木とともに全国から寄せられたメッセージボード

お便り ツツジを復興後の新たな資源に。大島亀山山頂の植樹。

2013年、2014年と気仙沼大島亀山山頂にヤマツツジなど約1万3,000本の植樹をしてくださいました。
東日本大震災で山頂までのアクセスであった観光リフトが焼失し、
島の観光にとって大きな痛手でした。
復興後における資源の一つとして亀山山頂がツツジの名勝地になれば
４月のツバキ、5月の桜そして６月のツツジと山頂が花々で彩られ、
素晴らしい資源になるだろうと、想像しただけでワクワクします。
それにしてもイオンのスタッフの環境活動に対する意識の高さ、
そして機動力にはただただ驚きと感謝の気持ちで一杯です。
イオン気仙沼店の斎藤前副店長とのひょんな出会いがきっかけとなり
地元出身の村上イオン東北代表をはじめ多くの素晴らしいスタッフと出会うことができ、
交流の輪が広がったことも、植樹に匹敵するぐらいの感激でした。

気仙沼大島観光協会
会長　白幡　昇一さま

お便り 希望の木々を未来へ。美しい故郷の再建を目指して。

より良い環境を次の世代へ。私たちの活動の目的は、
植樹活動を柱にした次の世代が安心して暮らせる故郷づくりです。
津波にも負けない樹木、大津波のなか、流された人々の命をつなぎ生還させた木々の存在が、
「私たちが生かされていることの役割は後世のために植樹することである」と認識させてくれました。
必要に迫られ始めた活動ですが、イオンの皆さまからのご支援がなければ、
活動を開始することすらできなかったと思います。
2014年で３回目の植樹祭、その他にも多くの植樹活動を実施でき、
また、育苗活動も継続的に行えることは、ひとえに皆さまとの出会いがあったからこそ。
華やかな活動ではなく、地味に育苗や植樹を行う活動ですが、
いつの日か、誰にでも優しく美しい故郷が再建できることを夢見て日々活動を続けていきます。

NPO法人
海べの森をつくろう会
理事長　菅原　信治さま

「希望の響き」

大震災から4年が過ぎました。被災地には復興の槌音が響いています。
響いている音のなかでも、特に希望を感じさせるのは
イオンが被災地沿岸で行っている植樹活動の音です。
人間は本能的に木を植えることに喜びを感じ、
希望を見出せる唯一の存在です。
私たちの「森は海の恋人運動」も、
震災の年も休まず植樹祭を続けてまいりました。
それはこのことを確信しているからです。
これからも手を携えて希望の音を響かせていこうではありませんか。
2015.2.20

NPO法人
森は海の恋人
理事長　畠山　重篤さま

2012年度～2014年度の活動報告

02 ボランティア派遣

自治体やNPOと連携して、イオンピープルによる
被災地域でのボランティア活動を実施。
現地のニーズに合わせた中長期的な活動に取り組んでいます。

2011年度から労使それぞれで始めたボランティア活動は、
2012年度から「イオン 心をつなぐプロジェクト」として
労使が一体となった取り組みへとスケールアップしました。
オールイオンのボランティア活動では、
所属や立場に関係なくイオンピープル全員がともに汗をかき、
これまで約2,000名のイオンピープルが現地で活動をしています。

岩手県陸前高田市での活動 | 2012-2013

お手伝いさせていただいた活動の一部を紹介します。

2012年度 第16回 ボランティア活動報告

麦の収穫後、同じ畑で新たな作物をつくる準備として、堆肥をまく作業を行いました。また、菜種をまくための道具や、畑の畝づくりなど、リンゴの木を植える土壌づくりのお手伝いを実施しました。

- ●実施日：2012年10月3日（水）～10月6日（土）
- ●実施場所：岩手県陸前高田市気仙町上長部地区
- ●参加人数：イオンピープル 30名
- ●主な活動内容：新しい畑の土づくり、秋まき小麦の種まき

2013年度 第1回 ボランティア活動報告

震災から2年以上が経過し、瓦礫の片づけや住宅跡地の清掃などの作業はほぼ終了。今後は復旧へ向けて、土地の再生、地域コミュニティ活性化のためのお手伝いとして取り組んでいきます。

- ●実施日：2013年4月10日（水）～4月13日（土） 東京発
- ●実施場所：岩手県陸前高田市気仙町上長部地区
- ●参加人数：イオンピープル 34名
- ●主な活動内容：堆肥づくり、花壇づくり、木材の移動、畑の草取り、田んぼの石とり、杉の木を使った看板づくり、語り部による被災地ツアーの参加 など

2013年度 第15回 ボランティア活動報告

気仙町の上長部地区で郷づくりのお手伝いと、米崎町でヤルキタウンのコミュニティ広場の整備として、草刈りや植樹を行いました。

- ●実施日：2013年10月2日（水）～10月5日（土）東京発
- ●実施場所：岩手県陸前高田市気仙町上長部地区、米崎町
- ●参加人数：イオンピープル 34名
- ●主な活動内容：郷づくりのお手伝い、コミュニティ広場の整備のお手伝い など

VOICE

ボランティア参加者の声

「被災地ボランティアに参加して～陸前高田市～」

ボランティアが減少するなか、イオンが継続して被災地で活動することで、地元の方々との信頼が厚くなっているのを感じましたし、実際に感謝の言葉もいただきました。私自身も被災された方の話を伺うことができ、防災意識が高まりました。身近な友人、家族にしっかりと伝えていきたいです。

お便り

持続できる強力なパートナーに心から感謝。

真っ暗なトンネルを抜けて大槌に入ると、いたる所から煙が上がり、灰色の雪が降っていました。泥と瓦礫だらけの道は、かろうじてアスファルトが見えて、それを目印に走るのです。すぐにフロントガラスも眼鏡もマスクも灰色に変わりました。このときからしばらくの間、私の記憶には色がありません。山火事の残煙のなか、山道を通って大槌町の災害対策本部に着くと、そこには震災以来不眠不休で指揮をとる平野総務課長が。「何かできることは」と聞く私に「町長も多くの職員も死んでいるだろう。何でもいいからやってくれ。」という言葉。あの途方もない瓦礫の山と色のない世界を毎日目にして暮らす人々。すべきことは山ほどありました。どうやってサポートすれば良いのか。あの日から4年が過ぎます。多くのサポーターがやって来ては消えていきました。勿論全ての人に感謝すべきです。しかしまだ終わっていません。いまは被災地だけではなくその周辺も急激に衰退しています。日本の復興はもはや被災地だけでは語れません。心のこもったそして持続できる強力なパートナーがどうしても必要でした。「イオン 心をつなぐプロジェクト」のご協力、そして心のこもったサポートがどれほど力になったことでしょう。皆さまがいたから我々もやってこられました。心から感謝しています。

NPO法人 遠野まごころネット
理事長 多田 一彦さま

お便り

希望の木々を未来へ。美しい故郷の再建を目指して。

東日本大震災から間もなく4年。「イオン 心をつなぐプロジェクト」で、陸前高田にいらした皆さま、お元気でしょうか。沢山の方々に、上長部地区や、米崎地区に来ていただき、ボランティア活動にご参加いただきました。本当にありがとうございます。おかげさまで、私たちが待ち望んでいた、かつ、私たちの働く場所でもある、イオンのショッピングセンターもオープンしました。私たちの生活に、欠かすことのできない施設になりつつあります。

ただ残念なのは、災害から4年が経ち、震災のことが風化していっているという現実です！ぜひ多くの方々に、東日本大震災の被災地は、復興の途中だということを知っていただき、より一層のご支援をお願いできればありがたいです。

特に未来ある子どもたちのための学習支援や、公園、校庭などの遊び場や運動施設づくりに向けた支援をお願いできれば、大変ありがたいと考えています。子どもたちが安心して遊べる施設ができることにより、若いお母さん方の精神的なストレスの解消にもつながると思うからです。皆さまには、お願いばかりを書いてしまい申し訳ありませんが、これからも被災地に、来ていただければ、本当にありがたいです！

一般社団法人
「陸前高田被災地語り部」くぎこ屋
代表 釘子（くぎこ）明さま

福島県南相馬市での活動 | 2013-2014

お手伝いさせていただいた活動の一部を紹介します。

2013年度 第8回 ボランティア活動報告

福島県南相馬市小高区での活動と、原町区での農園のお手伝いを行いました。今回小高区では、3軒の家屋清掃や家財の運び出しを、家主さま立ち合いのもとお手伝い。日中しか戻ることができないご自宅で、避難先も遠く簡単に通えない状況のなか、震災前まで大切に使われていた家財道具をご家族だけで運び出すのにはとても時間がかかります。少しでもお役に立てればと活動しました。

- ●実施日：2013年7月17日（水）～7月19日（金）東京発
- ●実施場所：福島県南相馬市小高区
- ●参加人数：イオンピープル 18名
- ●主な活動内容：家屋整理、家財の運び出し、農園のお手伝いなど

2013年度 第18回 ボランティア活動報告

1日目は小高区内の個人さま宅の家財出し・草刈りを行いました。除染のために、家財出しや伸び放題の草刈り等、やるべきことはたくさんあります。家主さまも来ていただき、ご挨拶後3班に分かれ作業を開始。作業後、家主さまからお礼の言葉とともに「鳥は飛ばねばならぬ。人は生きねばならぬ。必ずまたこの土地・家に帰ってきます。」という力強い言葉がありました。2日目は宮城県亘理町で、シロダモとクロマツの苗木ポットづくりをお手伝い。午前中のみの活動でしたが、3,376個の苗木ポットが完成しました。

- ●実施日：2013年11月6日（水）～11月8日（金）
- ●実施場所：福島県南相馬市小高区、宮城県亘理郡亘理町
- ●参加人数：イオンピープル 29名
- ●主な活動内容：個人さま宅の家財出し・パイプ小屋解体・草刈り、苗木農場にて苗木ポットづくり

2014年度 第10回 ボランティア活動報告

1日目は2ヶ所に分かれての活動となり、1軒目のお宅では2つの小屋からの家財出しを行いました。小屋から運び出されてくるものはどれもこれも思い出の詰まったものばかりで、家主さまは一つひとつ手に取り、持って帰られるものを選別していらっしゃいました。思い出の品を処分しなければならない現状にやるせなさを感じざるを得ませんでした。もう1軒のお宅では、家財の搬出、伸び放題になっていた竹の伐採などをお手伝い。2日目は苗木1,500本ほどの鉢替えや除草、ポットの配置換えなどを行いました。

- ●実施日：2014年7月2日（水）～7月4日（金）
- ●実施場所：福島県南相馬市、宮城県亘理郡亘理町
- ●参加人数：イオンピープル 43名
- ●主な活動内容：個人さま宅の家財出し、竹伐採、苗木の鉢替え、除草など

お便り

南相馬市に皆さまの笑顔をお届けください。

「イオン 心をつなぐプロジェクト」の皆さまには、継続的に全国から足を運んで南相馬市民の生活再建のために汗を流していただき、大変感謝しています。福島第一原発から20km圏内にある南相馬市小高区は翌年に警戒区域が解除されましたが、未だ居住は許されず、草木は荒れ、家々は鼠や湿気に蝕まれています。震災から4年が経ち、病院が復活したり食堂ができたりと復興に向けて少しずつ動き出していますが、地域の除染は3分の1がやっと終ったという程度。
2016年4月には小高区の避難区域の解除が計画されています。復興に向けて市民の気持ちを前に進めるためにも、これからも支援活動を続けてまいります。どうぞ、皆さまの笑顔を届けに南相馬市においでください。心よりお待ちしています。

南相馬市社会福祉協議会
災害復旧復興ボランティアセンター
センター長 鈴木 敦子さま

VOICE

ボランティア参加者の声

「被災地ボランティアに参加して ～南相馬市～」

実際に現地に足を運んで、震災から2年経っても
時が止まったままの地域があることに驚き、
まだまだ復興支援が必要であることを実感しました。
また現地の方の意見や要望と、国の復興に関する取り組みに
温度差を感じてしまいました。

参加するまでは震災から3年以上も経っているのに
活動することがあるのか疑問でしたが、
実際に現地を見て、何も解決していないことがわかり、
それまで他人事で済ませていたことを申し訳なく感じました。
このような取り組みを今後も継続していくことが
大切だと思います。

お便り

東日本大震災はまだ、過去の出来事ではない。

東日本大震災・原発事故から間もなく4年。その間、皆さまには多くの励ましとご支援いただいたことに、誠に感謝しているところです。特に福島県では原発事故により未だ先の見えない復興への道筋と避難され各地で生活している多くの人々の生活再建が課題になっています。南相馬市の小高区は2016年4月に避難指示の解除が、続いて2017年の4月には浪江町の避難指示解除準備区域の解除が予定されています。現在、除染・インフラとも予定より2年遅れが出ているなか、来年3月に町長が解除の判断をくだすとしています。東日本大震災は過去の出来事として捉えられる方が大半になりつつあり、進まぬ復興があることは、皆さまには信じられないと思います。私たちNPOの活動も、もっと皆さまに向け訴えていく必要性を感じています。現在私たちは、コミュニティの再構築に向けて、復興まちづくり協議会の設立や民間によるふるさとコミュニティの構築のための立案・事業化を計画。さらには移動サービスの立ち上げ・運営など多岐にわたる生活再建に向けた施策を提言しながら、活動をしています。岩手・宮城に比べ遅れている復興を何とか加速して行きたいと日々努力致しているところです。当然のことながら…浪江町での生活の思い出や記憶も大切にしたいと思いながら移住先に住民票を移す人々もいます。震災のまま飛び出した、荒れた自宅にやりきれない想いを抱える人々は大勢いるはずです。

イオンの皆さまのボランティアの力をお借りし、浪江町の協力を得ることができれば、そんな想いに応えられるかもしれません。復興には長い歳月と労力そしてお金がかかります。皆さまから支援いただいたお金やあたたかい気持ちにお応えできるよう、新町なみえは今後も活動をしてまいります。プロジェクトの皆さま本当にありがとうございます。

まちづくりNPO
新町なみえ
理事長
神長倉（かなくら） 豊隆さま

ボランティアの成果と課題

ボランティア活動を体験し感じたこと・考えたこと、そして次代に活かすべきこと

震災以降、前例のない活動をあれこれ続けてきましたが、

とりわけ長期に及んだボランティア活動でわかったことは「地域社会」の重要性です。

大規模災害は「平和」への脅威であり、多くの人々から安全と安心を奪い、「地域社会」を崩壊させました。

我々はこの長期にわたるボランティア活動を通じて、

「地域社会」というものは人々が単に生活するための機能として存在するのではなく、

そこでくらす人々にとって「拠りどころ」であり「他に変えられない場所」であることを現場で体感しました。

「平和」がいかに尊いもので、そこに「地域社会」が長い年月をかけて形成され、「人間」は安心してそこでくらし幸福を感じる。

すなわち我々は、この活動を通じて身をもってイオンの理念にふれた気がします。

上長部地区では、ご高齢の皆さんがどのようにして集落を立て直したのか、

南相馬市小高区では住民の皆さん一人ひとりがどのような想いでくらしているのか。

この4年間で得た尊い体験を、我々は今後それぞれの事業分野においてどのように活かしていくのか。

それが次の3年間の取り組みのカギとなると考えています。

03 各地・各社からの支援活動

グループ各社や各労働組合、店舗や事業所など職場単位で、
自主的にさまざまな被災地支援活動を行っています。

東北復興マルシェ

東北の復興のために、イオンピープルが遠方からでもできること。

第1回 イオン 東北復興マルシェの開催

東日本大震災発生から2年が経過し、“私たちに何ができるのか。
遠方からでもできる支援があるのではないか。”という視点から、
イオン幕張本社において、従業員向けに『イオン 東北復興マルシェ』を開催しました。
会場では試食販売も行われ、温かいふかひれスープをはじめ、
珍しい海産物、新鮮なイチゴやトマトの試食などもあり、賑わいを見せました。
さまざまな商品のなかには、陸前高田市上長部地区で収穫された小麦粉や、
その小麦粉を使った手づくりのお菓子もありました。
これは、イオングループ従業員が被災地ボランティア活動で、
土壌整備のための「石拾い」から「種まき」、「収穫」、「選別」を
お手伝いさせていただいた小麦からつくられたものです。
ボランティアでお手伝いさせていただいた作物が実際に商品になったことがとても嬉しく、
これからも継続していきたいと思います。

●実施日：2013年3月18日（月）、3月19日（火）
●実施場所：イオン幕張本社 イオンタワー1階 イオンプラザ
●参加人数：来場者数 3,104名、出店者数 30名、イオンピープル 40名
●主な活動内容 ：イオンピープルを対象に東北の食品、
手仕事の商品を集めた東北支援物産展を開催

三陸鉄道全線運行再開記念「三陸まつり」開催

岩手県釜石市にオープンしたばかりの「イオンタウン釜石」にて、
三陸鉄道全線運行再開記念「三陸まつり」を開催し、
市内外の海産物や水産加工品、工芸品の販売や、三陸鉄道のパネル展を行いました。
岩手県内のお店や団体だけではなく、宮城県からは気仙沼市と登米市、
福島県からは浪江町も参加し、
全部で10の企業・団体の皆さまにご出店いただきました。
各ブースでは主力商品の試食や試飲を行い、
たくさんのお客さまにお楽しみいただきました。

●実施日：2014年3月21日（金・祝）～3月23日（日）
●実施場所：岩手県釜石市イオンタウン釜石
●参加人数：お客さま 4,500名

ドキュメンタリー映画「うたごころ」

（撮影）シギー吉田

**イオンはドキュメンタリー映画「うたごころ」シリーズを
日本各地や海外でチャリティー上映しました。
この映画は、宮城県南三陸町で多くを失った女子高校生を主人公に
合唱を通して苦難から立ち上がる人々の姿や想いを描いたもの。
被災地に寄り添う大切さを呼びかけるとともに、
《いのち》を慈しむ普遍的なメッセージを届けています。**

ストーリー紹介

（撮影）シギー吉田

宮城県三陸地方にある小さな町。
一帯が津波に流されるなか、
ひたむきに生きる女子高校生がいた。
彼女は親類5人と自宅を失った。
日本の片隅で、ささやかな幸せを願って生きてきた。
「次、何かあったら、自分の命を投げ打ってでも、
父ちゃん、母ちゃんを助けます…」

少女が大切にしていたのが「合唱」。
「歌は、みんなをつなげてくれるから…」

大阪の合唱グループとの友情。
次第に明らかになる、少女の生い立ち。

パズルのような家族関係が、
苦難を経て、さらに強く結ばれていく。

やがて来る高校の卒業、
新たな人生の選択。
再びやってきた震災から1年の日に
少女が初めて見せる素顔…。

人間の強さと弱さ。
それでも生きる希望を忘れない少女たち。
歌声に込めた“祈り”が、
人々の《こころ》を動かす日を信じて…。

監督メッセージ

（撮影）桝郷春美

榛葉（しばば） 健さま

■ドキュメンタリー映画監督
■テレビ番組企画プロデューサー

イオンの皆さまと映画『うたごころ』の出会いは、あるイオンの従業員の方からのお誘いがきっかけでした。
2012年5月に、宮城県気仙沼市でのボランティア研修会でシリーズ1作目を上映。周りは津波にのまれた町。
ホテルのカラオケ機器で上映する悪条件でしたが、主人公の気仙沼高校の女生徒の凛とした生きざまに、
皆さんが強く共感してくださり、「この映画を私たちで応援しましょう！」ということに。
続く幕張のイオン本社での上映では、最前列で涙を流す人の姿が。それはイオン（株）イオン東北代表の村上教行氏でした。
「実は私、気仙沼出身で実家が流されているんです。高校も主人公と同じ。
この映画は被災者の想いそのもの。全国に届けることは私の役割です」

私の本業は放送局の社員ですが、「うたごころ」は私費でつくり、当初は無名の映画でした。
でも内容の深さに共感してくださったイオンの皆さまに支えていただき、3年間で大きく成長しました。
気仙沼市や南三陸町での大規模上映会。イオンシネマ全国30劇場での一斉上映や
3年間にわたる巡回上映。さらには中国での海外上映など、空前の広がりをみせています。
震災から4年。いまも困難を背負う方々に《生きるエネルギー》を
掴み取っていただけるように、少しでもお役に立ちたい。
これからも映画を通して「心をつなぐ」活動をご一緒させていただきたいと思っています。

（撮影）シギー吉田

「うたごころ《2012年版》」上映会
福岡県福岡市

イオンモール福岡では2012年にも「うたごころ《2011年版》」の上映会を行いました。2013年にも同じイオンモール福岡で続編の上映会を実施しました。

●実施日：2013年10月29日（火）
●参加人数：イオンピープル 65名

「うたごころ」上映会＆コンサート
宮城県南三陸町

「うたごころ」上映終了後は、サプライズゲストとして主人公が登場し舞台挨拶を実施。榛葉監督とのトークで絶妙な絡みもあり、会場は「涙、笑い、拍手」に包まれ、この映画が南三陸町に里帰りできたと感じました。

●実施日：2014年5月25日（日）
●参加人数：地域のお客さま 169名、イオンピープル 13名

「うたごころ《中国語版》」上映会
中国北京／広州

被災地の現状を知り「イオン行動規範宣言」に通じる、地域・人々との絆を思いやる心を育むことをねらいとして上映会を実施しました。また、震災時の中国からの支援に対する感謝を表すことにもつながりました。

●実施日：2015年3月11日（水）、3月12日（木）
●参加人数：イオンピープル 167名

植樹も募金も、従業員の力を合わせて。

イオンクレジットサービス株式会社

イオンクレジットサービス(株)は、労使協働で宮城県亘理町にて、「イオン 東北復興ふるさとの森づくり」で植樹するための苗木をつくる活動を推進。地域のボランティアさんたちと一緒にどんぐりの実を拾い集め、苗を植える土を調合し、どんぐり苗ポットを一つひとつ手作業で仕込みました。また、従業員がそのどんぐり苗ポットを各自で育てる「復興記念樹・どんぐりキャンペーン」を進めました。

さらに、従業員が家にある本やCDなどを持ち寄り、売却した利益を被災地に寄付する「BOOK募金」を実施し、1,200名を超える従業員が協力して被災地支援活動を推進。全国で7,000を超える本やCDが集まりました。

お便り

報道ではわからない現地の光景に、継続支援の必要性を実感。

2011年当時は海外赴任していたため、東日本大震災の状況については報道で知るのみでした。海外メディアでも、大震災の状況や、国や各自治体、多くのボランティアの方々の復興への活動が大きく報道されていました。昨年イオングループ主催の「イオン 心をつなぐプロジェクト」に参加し、南相馬地区で多くのイオンピープルと一緒に復興のお手伝いをさせていただきました。そのときの光景は、海外や国内メディアを通じての光景とは全く違っていました。お手伝いをした南相馬地区は、復旧活動が始まったばかりの状況であり、現地にお住まいの方々が震災前のくらしに戻るまで、かなりの時間がかかると感じました。また、現地にお住まいの方々からは「震災を忘れないで、風化させないでください」とのお声もいただきました。

イオンフィナンシャルグループ従業員は、これからもこのプロジェクト活動に参加して、復興のお手伝いを続けてまいります。

イオンクレジットサービス株式会社
代表取締役兼社長執行役員
水野 雅夫

被災地へ、想いと材料を持ち寄って。

イオンビッグ株式会社

イオンビッグ(株)は、東北復興支援ボランティア「マスコット・プロジェクト」を推進。被災地で「ブローチ」「子ども用エプロン」や「人形」を手作りしている団体を支援しようと、1,700名を超える従業員からその材料である生地や布地を集めました。

また、社内で東北復興支援活動をPRするため、合同店長会議において「ボランティア活動成果報告会」を実施するなど、「イオン 心をつなぐプロジェクト」の従業員への啓蒙とモチベーションアップに向け継続して活動を進めています。これまでに、合計9,317名の従業員が参加し、復興支援ボランティアを推進しています。

お便り

震災年に生まれた会社として これからも地域の皆さまとともに。

イオンビッグ(株)が設立したのは東日本大震災が起きた2011年。震災時には栃木県内にある4店舗が被災し、電気ガスが止まったなか、被災した従業員が店頭販売で地域のお客さまのために尽力する姿がありました。営業再開時に多くのお客さまにご来店いただいた様子を思い出すと、いまでも胸が熱くなります。

この経験から、企業は規模を大きくすること、利益を上げることが目的だとしても、地域のお客さまの信頼がなければ企業は存続できないということを実感しました。

この想いを全従業員が共有するためにもイオンにおける東北復興支援活動では、被災地の復興に向け直接または間接的にボランティア活動に取り組んでいます。

イオンビッグ(株)は、2014年度末現在、店舗数20店舗、従業員数4,000名程の小さな企業です。規模の大きな活動はできませんが、イオンの基本理念のもと東北復興支援に向け小さなことでも支援を継続していきます。

イオンビッグ株式会社
代表取締役社長
鈴木 新樹

笑顔を増やす、風化を防ぐボランティア。

イオン九州株式会社

イオン九州（株）は、「イオン九州　心をつなぐプロジェクト」復興支援グッズを自ら製作し、被災地の物産販売も含め、従業員にチャリティ販売する活動を労使が協力して進めました。

2013年度は、その収益金によりミネラルウォーターを購入し、福島の保育園に届ける活動を実施。2014年度は、「まごころサンタ　ボランティア企画」として、NPO法人遠野まごころネット主催「サンタが100人やってきた!」に参画し、その収益金により被災地の子どもたちへクリスマスプレゼントを届ける活動を実施しました。

さらに、2014年度活動の締めくくりとして、「語り部の会」を開催。震災の風化防止と復興支援を再度考えるきっかけづくりの会を開催しました。2015年度までに、全従業員のボランティア参加を目標に、今後も復興支援を進めていきます。

お便り　人と人が支え合うことの大切さを感じて。

先日、息子さんとともに陸前高田のボランティア活動に参加したイオンピープルからこんな話を聞きました。「この体験がきっかけで彼はボランティアに目覚め、学校で活動を継続、友達とサークルを立ち上げて、学内はもとより学外でも積極的に活動を行っている」と。感謝感激！ イオン九州（株）の取り組みテーマは「伝え、つなぎ、広げる」です。初めは小さな一歩からのスタートでしたが徐々に輪が広がり、いまでは多くのイオンピープルが活動に参加するようになりました。これは労働組合と一体となった推進体制、まごころグッズ購入という一人ひとりの行動、社会貢献基金の有効活用などに支えられたものです。1月に開催した「語り部の会」では理事長のお話に、全従業員が活動の重要性と風化させないことの大切さを改めて学びました。2015年度の東北復興活動では100名のボランティア派遣（うち部室長30名）、「100人サンタ」へ20名参加、全店および会議研修での復興支援グッズの販売（販売アイテム拡大）を計画しています。この活動を通じて人と人が支え合うことの大切さを学び、さらに人に優しい企業になることを期待しています。

イオン九州株式会社
取締役
人事総務本部長
山本　博之

惣菜事業ならではの東北支援。

オリジン東秀株式会社

オリジン東秀（株）は、社内公募で提案された「東北の幸　考えて・作って・食べて応援プロジェクト」を2014年6月にスタート。社内で復興支援活動を進めるにあたり、社長をトップとする「オリジン　心をつなぐプロジェクト」を立ち上げ、ミーティングを開催しました。

結果、自社が得意とする、被災地の原材料を使った惣菜を開発し従業員に食していただき、その売上金の一部を被災地に寄贈することになりました。イオンが2013年度からボランティア活動を展開している福島県南相馬市へ、ボランティアで使用する草刈り機や電動ドライバー、スコップなどの作業具を贈呈しています。

お便り　「考えて・作って・食べて」東北復興プロジェクト完結にあたって。

オリジン東秀（株）として初めて取り組んだ「東北復興プロジェクト」を無事に終えることができました。昨年春に当社に着任し、右も左もわからないなかでのスタートでしたが、多くの方々との面接を通じて部署間の垣根を越えた連携やコミュニケーションを実現するためのプロジェクトの一つとしてスタートしたものでした。どうせやるなら、「オリジンらしい」企画をと、「全従業員が考えて」「従業員自らが作って」「従業員が東北の幸を食べて」参加できる、そんなプロジェクトにしました。販売数量設定においては、通常の予算調整よりも真剣な眼差しで議論したのが、つい昨日のことのように瞼に浮かびます。反省・改善すべき点も多々ありますが、最大の収穫は「絆：いままで話したことのない多くの人と話すことができたことが大変良かった」というプロジェクトメンバー19名の経験であると感じています。2015年度は、さらに進化したプロジェクトで「東北復興」に寄与できればと考えています。

オリジン東秀株式会社
取締役　管理本部長
中薗（なかぞの）　良隆

宮城県東松島市おのくん製作応援活動。

イオンモール株式会社

イオンモール(株)は、宮城県東松島市にある陸前小野駅前応急仮設住宅生まれのキャラクター、ソックモンキー「めんどくしぇおのくん」製作応援に参加。「おのくん」製作に必要なカラフル靴下、手芸用綿を集め、仮設住宅のお母さんたちの手仕事を支援。月に一度、仮設住宅へ寄贈する取り組みをお客さまと従業員一体となって進めました。
お客さまやグループ各社からの支援も含め1万足もの靴下、および、2,000個を超える手芸用綿を回収し、イオンモールを通じて仮設住宅のお母さんたちにお渡ししました。おのくん人形販売や、イオンモールでの被災地写真展の開催など、年間を通して「おのくん支援」を実施しました。

お便り

ハード面の復興はもちろん、ハート(心)の復興を応援。

イオンモール(株)は「宮城県東松島市おのくん製作応援活動」を2014年3月から実施しました。靴下から手作りでつくる愛らしいおのくんというぬいぐるみの材料提供を呼びかけ、毎月寄付。加えて着ぐるみにもなったおのくんがモールキャラバンを実施し、おのくんとの撮影会やおのくんグッズ販売、さらには大西暢夫氏撮影の「写真で綴る震災の記憶」という東松島市のミニ写真展も同時に開催するなど、風化防止に努めています。被災地へ行くことは阪神・淡路大震災を経験した私には勇気が必要でしたが「イオン 心をつなぐプロジェクト」のセミナーで一歩を踏み出せました。この活動を通して東松島市の皆さまとお会いし、応援できる幸せもいただきました。ハード面の復興はとても大切ですが、私はハート(心)の復興を応援していきたいです。まだまだ復興途中の現実も、見たまま感じたままを行ったことのない仲間に伝えていければと考えています。

イオンモール株式会社
経営企画部
青木 晃子

12,000本の気持ちが込められた鉛筆。

イオンリテール株式会社 北関東・新潟カンパニー

イオン武蔵狭山店の従業員が「東北のために、何かできないだろうか」と、お客さまや地元の子どもたちも一緒に参加できる活動として「東北の被災地の子どもたちに鉛筆を送ろう」という企画を立ち上げ、継続的に活動しています。2012年度は気仙沼市教育委員会を通じ小学校に鉛筆をお届けしました。2013年度は気持ちが込められた鉛筆を集め、岩手県遠野市にあるNPO法人遠野まごころネットさまに寄贈いたしました。また、2014年度はイオン狭山店・入間店も加わり、気仙沼市教育委員会を通じ、小学校にお届けしました。3年間で総数12,000本の鉛筆を被災地の子どもたちにお渡ししました。鉛筆を手に勉強する被災地の子どもたちのために、今後も支援活動を進めてまいります。

元プロ野球選手による野球教室。

株式会社メガスポーツ

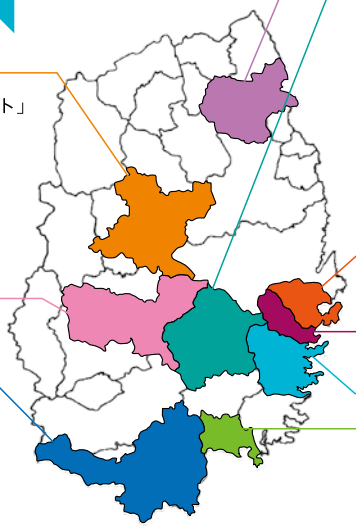
宮城県七ヶ浜町は、仙台市から車で45分程の三方を海に囲まれた小さな町です。七つの浜があることから七ヶ浜と名付けられたこの町も、東日本大震災の津波により全ての浜が大きな被害を受けました。元々スポーツが盛んだった七ヶ浜町で、今回、(株)メガスポーツが地域の野球チームを招き、元プロ野球選手による野球教室を開催。子どもたちがスポーツを通して困難に負けず元気に成長するよう願いました。

- 実施日:2013年11月4日(月・振休)
- 実施場所:宮城県七ヶ浜町
- 参加人数:お客さま 80名、イオンピープル 15名

各地での主な支援実績

イオングループ各社が「心をつなぐプロジェクト」を通じて取り組んだ、復興支援活動を紹介します。

岩手県



□盛岡市
【一般社団法人 SAVE IWATE】
●「東北にタオルを送ろうプロジェクト」
イオン保険サービス(株)
マックスバリュ北海道(株)
●「復興雑巾プロジェクト」
イオンプロダクツファイナンス(株)
●「おしゃれレッスン」
クレアーズ日本(株)

□花巻市
●「野菜の定植祭・収穫祭」
イオンアグリ創造(株)

□一関市
●「ふれあい野球教室」
イオンスーパーセンター(株)
イオンタウン(株)
イオンリテール(株)東北カンパニー
マックスバリュ東北(株)

□久慈市
●「ホタテ貝殻応援メッセージ」
イオンリテール(株)北関東・新潟カンパニー

□遠野市
【NPO法人遠野まごころネット】
●「100人サンタ！」活動
イオン九州(株)／イオンクレジットサービス(株)
イオンリテール(株)北関東・新潟カンパニー
イオンリテール(株)東海・長野カンパニー
マックスバリュ中部(株)
●「復興支援グッズ購入支援。サンタが100人やってきた！」
●「遠野語り部講演会」
イオン九州(株)／イオンモール(株)

□山田町
●「山田町地場商品の復興マルシェ」
イオンリテール(株)近畿・北陸カンパニー

□大槌町
●「ボランティア活動」
イオンモール(株)

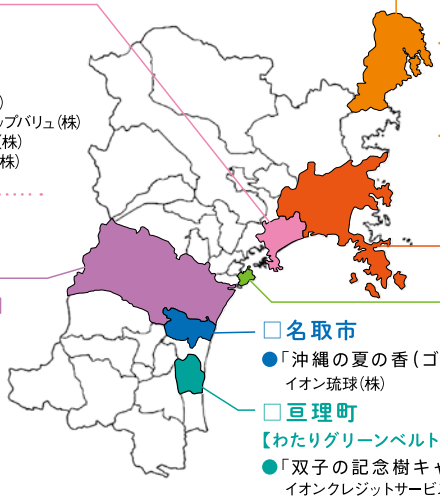
□陸前高田市
【一般社団法人「陸前高田被災地語り部」くぎこ屋】
●「語り部講演会」
イオングローバルSCM(株)／イオンコンパス(株)
イオン商品調達(株)／イオントップバリュ(株)
イオンビッグ(株)／イオンモール(株)

●「送って応援・ねこぴんち布を送ろう」
イオンフードサプライ(株)
イオンリテール(株)中四国カンパニー／ブランシェス(株)
●「ボランティアさんへの炊き出し活動」
マックスバリュ東北(株)
●「マスコット・プロジェクト、布を集めて手仕事支援」
イオンビッグ(株)／イオンリテール(株)東海・長野カンパニー
マックスバリュ南東北(株)
●「BOOK募金支援」
イオンクレジットサービス(株)／イオンリテール(株)中四国カンパニー
マックスバリュ九州(株)／マックスバリュ中部(株)

□釜石市
●「バドミントン教室」
(株)メガスポーツ
●「マスコット・プロジェクト」
イオンビッグ(株)／イオンリテール(株)東海・長野カンパニー
マックスバリュ南東北(株)

【再生の里ヤルキタウン】
●「ボランティアさんへ炊き出し活動」
マックスバリュ東北(株)
●「復興マルシェ募金」
マックスバリュ関東(株)

宮城県



□東松島市
【小野駅前郷プロジェクト】
●「おのくんプロジェクト」
イオンアイビス(株)／(株)イオン銀行
イオンコンパス(株)／イオンダイレクト(株)
イオンディライトセキュリティ(株)／イオントップバリュ(株)
イオンフードサプライ(株)／イオン北海道(株)
イオンマーケティング(株)／イオンモール(株)
イオンリンク(株)／(株)光洋
●「東松島市物産展」
イオンタウン(株)

□仙台市
【NAGOMI SALON TRICK AND TREAT】
●「マスコット・プロジェクト」
イオンビッグ(株)／イオンフードサプライ(株)
イオンリテール(株)東海・長野カンパニー
マックスバリュ北海道(株)
マックスバリュ南東北(株)
【NPO法人フローレンス】
●「被災地の子どもたち支援活動」
ブランシェス(株)

□名取市
●「沖縄の夏の香(ゴーヤ)を届けよう」
イオン琉球(株)

□亘理町
【わたりグリーンベルト】
●「双子の記念樹キャンペーン」
イオンクレジットサービス(株)

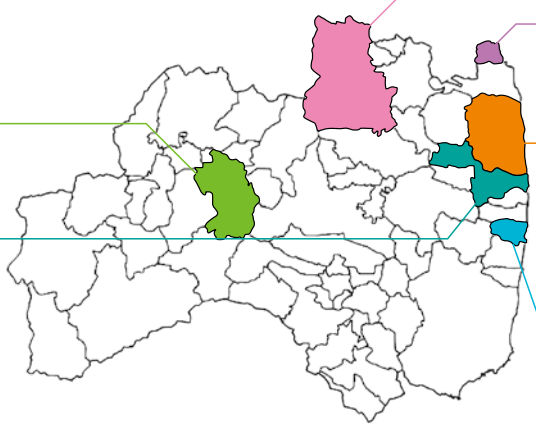
□気仙沼市
●「鉛筆を東北の子どもたちに送ろう！」活動
イオンリテール(株)北関東・新潟カンパニー
●「収穫した野菜を鹿折小学校へ送るプロジェクト」
イオンリテール(株)近畿・北陸カンパニー
●「気仙沼店OBの斎藤さん語り部講演」
イオンクレジットサービス(株)

●「サクラチャリティーPT、お客様と行く気仙沼ボランティアツアー」
(株)イオンフォレスト
【NPO法人海べの森をつくろう会】
●「募金活動」
イオンフードサプライ(株)

□石巻市
●「復興タオルプロジェクト」
イオンリテール(株)北関東・新潟カンパニー
●「浜こん2014」
(株)ツヴァイ

□七ヶ浜町
【復興支援ボランティアセンター】
●「被災地ボランティア活動」
イオンクレジットサービス(株)

福島県



□会津若松市
●「米生産の体験研修」
(株)イオンイーハート

□浪江町
●「沖縄の夏の香(ゴーヤ)を届けよう」
イオン琉球(株)
●「B-1グランプリ 浪江焼きそば食べて応援」
イオンバイク(株)／イオンフードサプライ(株)
【NPO法人新町なみえ】
●「新町なみえを支援しよう!募金活動」
イオンフードサプライ(株)
イオンリテール(株)北関東・新潟カンパニー／(株)光洋

□福島市
【NPO法人チームふくしま】
●「福島ひまわりプロジェクト」
マックスバリュ九州(株)

□新地町
●「福島からの語り部講演会」
●「福島民報社コラボの写真展」
イオン北海道(株)

□南相馬市
●「東北の幸 考えて・作って・食べて応援プロジェクト」
●「ボランティア作業具贈呈」
オリジン東秀(株)
●「被災地に花の苗を送ろうキャンペーン！」
ミニストップ(株)

□富岡町
【生活復興支援おだがいさまセンター】
●「福島の語り部さんのお話をお聞きする会」
イオンアイビス(株)／イオンダイレクト(株)
イオンマーケティング(株)／イオンリンク(株)

04 第2期(自立拡大期)に向けた取り組み

第1期「初期的構築期」			第2期「自立拡大期」			第3期	
2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
プロジェクト事務局が中心となり支援活動を全国に広げる			グループ各社と、各社の労働組合が自立的に創造性を発揮して支援活動を進める				
イオン 東北復興ふるさとの森づくり							
ボランティア派遣							
各地・各社からの支援活動							

これから先の未来へ。「交流と創造」の実践を目指して。

「整理充実期」

2020 2021

支援活動を通じて
学んだ知見・経験を
各々の組織に蓄積し
新たな災害対策や
社会問題の解決に
活かしていく

私たちは、これからの3年を「自立拡大期」と位置づけました。
この期の目標は「地域の人々との交流によって、
グループ企業・労使が一つの地域と関係を持ち、
長期にわたって寄り添い、継続的な支援を実践する」ことにあります。

「イオン 東北復興ふるさとの森づくり」では、
東北各地で海岸林の再生を願い活動する地域の皆さまと、
全国各地・各社が結びつき、植樹活動を通じた
地域間交流が生まれることを期待します。
また樹木に限らずぶどうやゆずなどの果樹、
ツツジやヤマザクラなどの花木を植樹し産業や観光の振興のお手伝いをします。
さらに地域の皆さまの心の拠り所となっている鎮守の森の再生や、
流失した駅前広場への植樹を続けてまいります。

「ボランティア派遣」では、原発事故による避難生活から、
地域再生に向かう福島県浜通りでの活動を通じ、
社会の問題を現場で実践し考えることの重要性を共有し、
参加者がそれぞれの社会生活や仕事に
この体験を活かしていただきたいと考えます。
そして、第2期にはこれまでの汗を流すボランティア活動から
「交流」に重点を置いた活動として取り組んでいきます。
苦境に立ち向かい、自ら立ち上がろうとする方々との交流を通じ、
双方が創造的につながり刺激しあえるような交流プログラムを提案いたします。

長期にわたって復興支援活動を行うためには、
より本質的な活動として、地域の皆さまの想いに寄り添い、
時宜を得た活動であることが必要です。
そのために、第2期のキーコンセプトを「交流と創造」としました。
交流することが、さまざまな想いを相互に還流させ、
関わり方や支援の在り方を創造することに結びつくと考えました。
この冊子でも紹介したように、
先行した数社が、地域とのつながりを模索し実践した好事例が生まれました。
それぞれの活動主体が、自らの問題意識を携え被災地を訪れて、
「交流と創造」に結びつけていきたいと思います。

東北の豊かな未来のために、お客さまとともに。

www.aeon.info/environment/kokoro/

お問い合わせ先　本報告書の内容やイオンの環境保全・社会貢献活動について、ご質問やご意見がございましたら下記にご連絡ください。

イオン株式会社　グループ環境・社会貢献部 〒261-8515 千葉県千葉市美浜区中瀬1-5-1　Tel:043-212-6037 Fax:043-212-6790

イオンWebサイト http://www.aeon.info/

2015年5月発行